

# 山形大学人文学部講演会

日時 2016年2月6日(土)

15時～17時

場所 山形大学人文学部棟 205 教室

事前予約不要

# Nyx

ニュクス

思想誌『nyx』2号第2特集「恋愛論」より

## 恋する人文学——哲学・文学・恋愛

世界がどうあろうと、私たちは恋をする。

古来、人は恋に生き、恋に悩み、恋の歌を詠み、恋の物語を編み続けてきた。恋する者は一方で、相手の存在を渴望して、自分のものにしようと欲する。恋人達は、困難や障害に打ち克ってでも、いやまさに障害のゆえに、ますますいっそうお互いの合一化を望む。また他方で恋する者は、その愛のために相手を傷つけ、責め苛み、苦しめようとする。そうした恋愛感情のもつれは、ときにストーカーや殺人にまでおよんでしまう。恋の喜びは、灰色の日常生活を色づかせ、失恋の悲しみは、世界をひとつ失うことと同じほどの絶望を抱かせる。恋愛の喜びと悲しみは、洋の東西、時代の古き新しきを問わず、人間にとって普遍的な感情のように思われる。それがあたかも人生の最重要事であるかのように。

しかし、それは本当だろうか。

講演 「恋するシェイクスピア」 伊澤高志

『nyx』2号掲載「愛し合う身体と言葉のゆくえ——『ロミオとジュリエット』における愛、性、結婚」  
に関してなど、シェイクスピアにおける恋愛を解説します。

トークセッション 「恋愛を哲学する」 柿並良佑 × 合田陽祐

哲学は恋愛を語り得るのか。  
「恋愛」というキーワードを通じて哲学とは何かを語ります。

座談会「恋する人文学」伊澤高志 × 柿並良佑 × 合田陽祐 司会：小林えみ（堀之内出版）

人文学は危機にあるという。  
しかし、様々な形で語り継がれ、多くの人が関心を寄せる「恋愛」が人文学を復興させる糸口となる？  
学問・出版等様々な角度からの「人文学」を「恋愛」から読み解きます。

### 登壇者紹介

伊澤高志（いざわたかし）

一九七八年生まれ。立正大学文学部文学部講師。専攻はイギリス文学。論文に「旅する恋人たち——『ロミオとジュリエット』翻案試論」（『文学部論叢』一三七号、二〇一四年）等。共著に『十七世紀英文学と戦争』（金星堂、二〇〇六年）、共訳にドリーン・マッシー『空間のために』（月曜社、二〇一四年）等。

柿並良佑（かきなみりょうすけ）

一九八〇年生まれ。山形大学人文学部専任講師。専攻は現代フランス哲学・表象文化論。論文に「哲学の再描——デリダ/ナンシー消え去る線を描いて」（『思想』岩波書店、二〇一四年第一二号）等。共訳に、ルイ・サラ＝モラン『ソドム——法哲学への銘』（月曜社、二〇一〇年）等。

合田陽祐（ごうだようすけ）

一九七七年生まれ。山形大学人文学部専任講師。専攻はフランス文学・芸術。論文に「アルフレッド・ジャリの「脳だし機械」の理論モデルの進化について」（『フランス語フランス文学研究』一〇四号、二〇一四年）等。共著に『アルフレッド・ジャリ、自筆草稿からタイポグラフィまで』（デュ・レロ出版、二〇一四年）等。

【主催】山形大学人文学部

【お問い合わせ先】 mail:kakinami@human.kj.yamagata-u.ac.jp